

# 日本画家 加藤弘光

① 1957年(昭和32年) 1月7日生まれる(兄の2人弟)  
 稗の名所(増城具大河原町)で育つ  
 (JTB東日本のホスタード毎年2)上げられる



⑤ 中学校で女の子に憧れ、身長を伸ばす為「バスケット部」に入る  
 (バスケット部は偏差期を上げる)

しかし運動能力は全くなく、その上154cmの身長...万年補欠となる



⑧ がんばれ、東京の日本画家を紹介してやろ!!

許嫁の祖父(元清洲国大使)に初め京都の巨匠堂本印象を紹介されるが、上京前に死去。  
 そのかわりに、日展の新進気鋭の日本画家「土屋不二」(現茨城学院員)を紹介される。



② 家庭環境厳しく、地方の代々続く家柄であるが、祖父が酒乱で、毎晩あはれまくる。母に守られ、小島トヨから一人、家の傍にこもり猿を飼う毎日。幼稚園も不登校。この頃から、人の褒美をいかりに見るようになる。



⑥ やっぱり画家だ!!

高校では、やまゝ勤加機を反発し、「美術部」に入る。しかし、油絵や陶刻、デッサンに身が入らず、老人とこの日々を過ごす。  
 この頃、人前に出て自分のイラストを有名画家に、フロッキータをあげる。ヤマハのホリフユンや市民会館で出展を続ける。



⑨ やあ〜!! 田舎者

⑨ 準備期間3か月。カキが鉛筆と12色の透明水彩絵具をもち上京。しかし、他の受験生は、ドイツのステットナー鉛筆と数多くの絵具を入れたパレット。写真の如く描くツツカカ、水彩絵具の描写力を専ら求め、受験する前から力負け。  
 競争率30倍超え、あえなく不合格...  
 これから3年浪人。おまけ「暗黒時代」へ突入。

③ 小学校の時の絵のモデルで賞をとり、副賞で青木繁「海の幸」の複製をもらう。この絵を見て画務に夢中になる。



④ しかし、現実には、画家になる術(方)も知らず、毎晩あはれまくる祖父の劣悪な環境の中で、ひたすら漫画をホドく。中学校の時は、本にイラストを応募して賞金をかせぐことを確める。

そして、小学生の時から人前で話すことができず、しばらく続かず暗黒の時代が来た。



⑦ 転機①

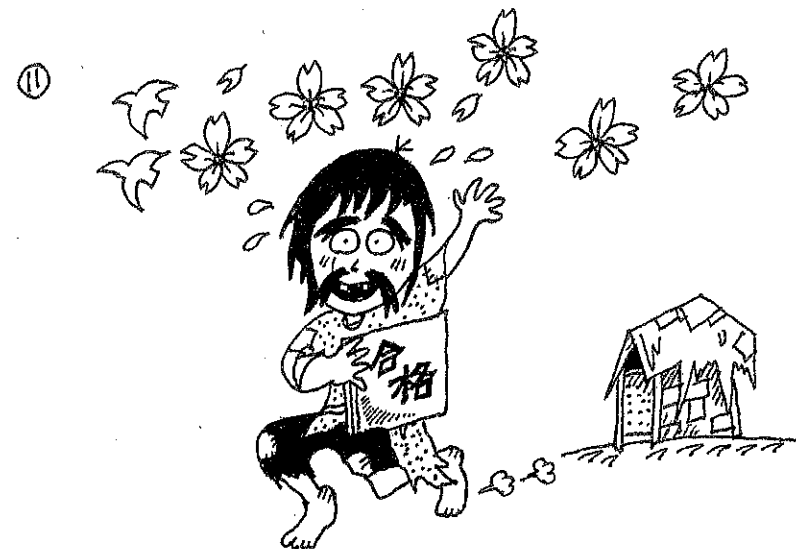
高校の進路相談では「画家は変わり者がなれない。先生にまれ」と担任から言われる。両親も反対する。

高3、原宿(めげ)前(3カ月前)に仙舟のデパートで初めて「日本画」の展覧会を見る。「これぞ!!」と天啓に受けて、会場内で号泣。「日本画家になる」と強く決意をする。(17歳)



⑩ ひさ〜!! 老練除

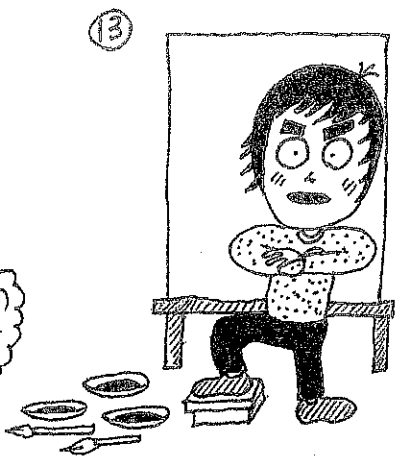
長い浪人生活。実家に帰れば親せき一同近所の冷たい目。そして親の孤独感。精神は、1人で自分自身の熱い思いで、朝から準備校で石膏デッサン。静物着彩と静物透視からは資料の勉強。今を悔に出る。



⑪ 長〜長〜浪人生活。3浪後、多摩美術大学日本画科にめでたしめでたし入学。(30倍の倍率) 東京芸大は、おまけ3次試験で不合格。1次試験(石膏デッサン)、2次試験(静物着彩)、そして3次試験は、学科と面接。面接の時、平山有次氏から「これぞ上手な絵だ。他の大学でも合格しているでしょうね」の門あけに専直に「V!!」ひっかけ質問で通す。不合格。しかし、前準備校が多摩美で、多くの生徒の待てた。必然であった。



⑫ 美大在学中は、ひたすら絵に没頭。仕送りは全て画材へ。体重も激減。(身長180cm、体重54kg程に)1カ所。1日働いたぶんだけ没頭。途中、前世の別れ。その時から女性不信。そして、今度は「女性暗黒時代」へ突入。

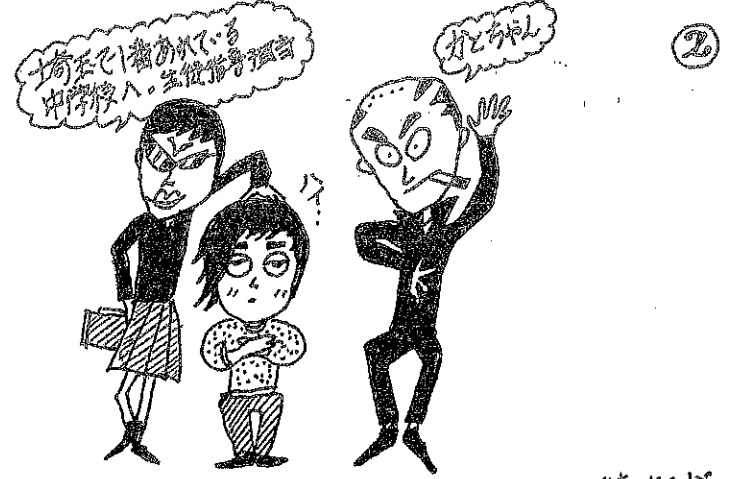


⑬ 多摩美術大学  
日本画科の教授陣  
加山知造(加山知造)  
山本 玄人(やまもと けんじ)  
堀 文子(ほり ぶんこ)  
上野 泰郎(うえの たいじろう)  
今思、選せば、キリ猫のおま  
目匠さん。

美大卒業後は、大学院の研視科に進む。  
(名前は格好良いが、女々女、社会に出て、絵を描きかただけ。その間、河原聖美術研究所(予備校)で絵を教えて、絵具代もかせく。  
大学院在学中に、今のパートナーに出会い、長い長い「女性暗黒時代」を終え、結婚。



⑭ 転機②  
(日本画家) 金八先生(?)  
大学院を終え、「どうやら戻らなくのが」。  
それは、埼玉県の中学校の先生への転身だ。(27歳)



⑮ 恩師や先生方からは、「アルバイトで生活せしよ」と言われ続けながら、経済基礎の安定化を図り、学校の教師に。学校に積極性を負かせ、絵を描く画壇らしく反響の思いが強く、1日フルタイムの教師と画家の2足のワダジ生活に入る。



⑯ 昼は、金八先生。夜は明け方まで制作の毎日。しかし、中学校は、朝7時から夜10時、11時まで。土日と部活。制作量は激減。限界入。(女々女、生徒との関係は最良女々)



⑰ 転機③  
画家と教師の2足のワダジ。限界に来た時、只のフダフダで生徒指導と時間の余裕のある養護学校の教師に転身。以後、埼玉県立「矢野的障害児」「肢体不自由児」「養学校」と経歴を重ねる。



⑱ 日中は養護学校の先生。夜は明け方まで制作。展覧会を再開。川貞詞に、まことに日本画家の生活が復讐しそが、と思えその反が...



⑳ 広い平野にたたかひ。何のバックアップもなく頼れる人もなく。その中で、決断。「俺は、世界に生きたい!!」「世界一の画家だ!!」何の根拠もなく。東郷は、唯一自分自身の熱い思いと志。

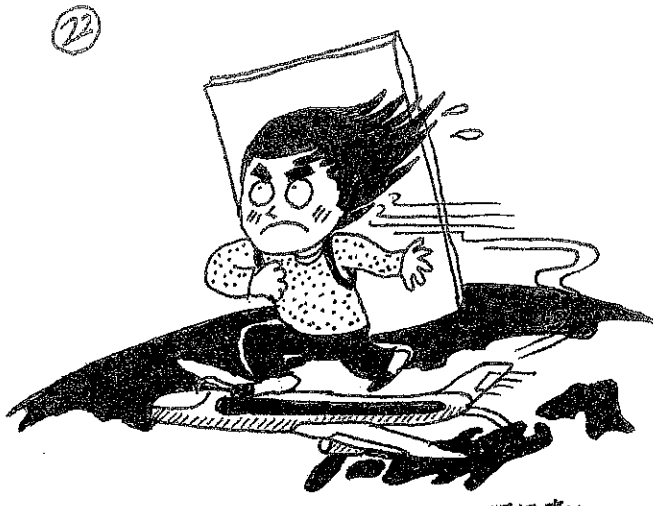


⑳ 日本画家として経験を重ねる度に、段々と自分の原点から離れて作風がまわらなくなった。このままでは「自分の絵」が描けなくなる。団体展をやめるか、つぶれるか。そして絵から離れるか。長い長い葛藤の末に、18歳からフワッとした離れと私に対する批評は、すさまじいものであった。女々女も離れて、女々女。涙、涙の決断であった。(37歳)

② 転機④ 海外へ\*

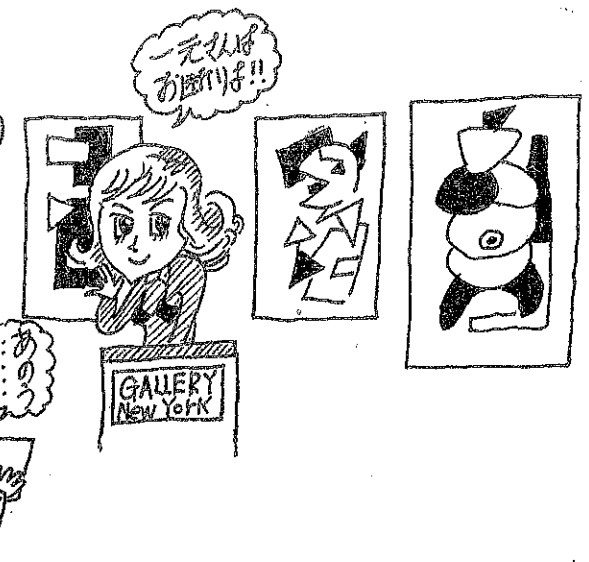


自分の目ざす画廊に、自分からとんとん交渉を取りプレゼンを行う。  
日本の貸画廊のシステムを利用して、独立してから年2回の個展を行う。その他、グループ展、企画展を合わせて年7回~8回のペースで活動する。



個展を通じて応接していく美術関係者のアドバイスに、心動かされる。  
「看ま透輸入型なので、必ず海外で認められる。海外に行きなさい。」  
しかし、誰一人、コネをもち、まず自分で働き模索する。

紹介を多く、コネを多く、ホスト・ニューヨークに作品を売り込みに行く。(パートナーの友人) しがし、日本のギャラリーにはシステムが合う全て集めて、世界規模の企業態。  
美しい受付の女性が、世界中からの売り込みを断める役目。「一元さんお断り」  
「絵画チームは、自ら作り出す」  
この言葉に、あ然……。  
しがし、めげることも働かざる。



最初に、認めてくれたのはスペインだ。その後、パリやニューヨーク、モナコ、ドバイなどの企画展やアートフェアで作品を展開し、コレクションされる。(48歳)



ヨーロッパやアメリカの美術館のキュレーターや画廊のオーナー、評論家と話をし、今まで信じてきた画家像がひっくり返る。だまされた!!  
ピカソもマクスモリワールなどの印象派の画家を超一流の企業家だ。全画が、毎月確率販売ペースで、美術の教師を、アケセ、何も知らずが、

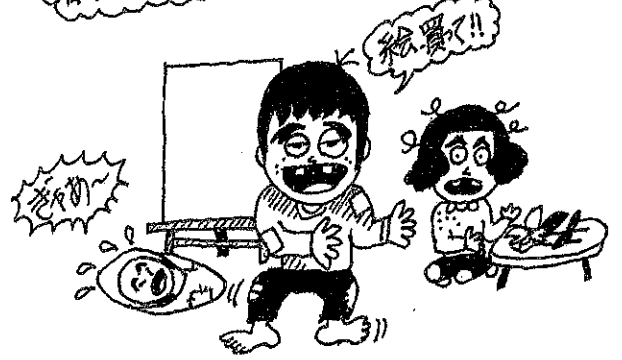
⑤ 転機⑤ 世界への画家に



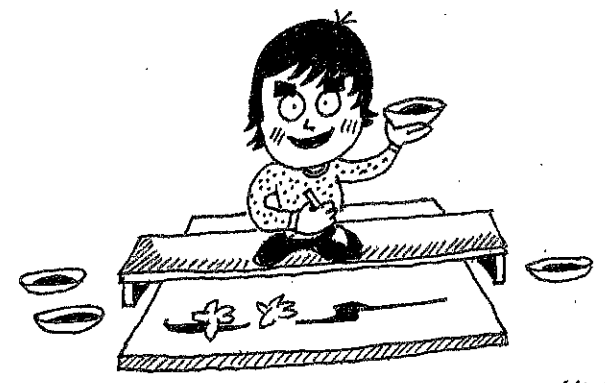
長年続けてきた2歳のワラジ画家一本に、しぼる時がきた。  
3人の子供達もが独立し、55歳で学校をやめ、目ざすは「世界の画家」。  
同時に会社「アトリエヒロ」を設立。パートナーが社長で、自分が工場長、及び営業部長。  
残りの人生全てをかけて、全力で夢の実現人。(55歳)  
そして走り続けている。



イタリアの天才エア「マリオ」とビジネスパートナーを組む。西麻布の彼の大きな「マリオアトリエ」リストアを個人美術館とする。  
4m~3mの屏風を中心に、8点を展示。年3回展示替えをして、セレクト対象に売り込む。(2017年まで)



「日本人の画家のイメー」  
・貧乏・うさん臭い・性根不抜者  
・変わり者・経済観念の欠陥者などのマクスイメージ  
作品のねんも、おなげでコレクションして、イメーが強い、岸田画廊にガガ、左右される。



「日本画とは」  
明治維新の時代、西洋から入ってきた油絵に、対して、これまでの日本絵画を「日本画」と総称し、7世紀前後に、中国から入ってきた絵画が、日本の風土の中で独自に進化し、続けてきた。  
日本画の道具(自然の岩料)、ニカワ(接着剤)、水を併せての独自の表現。  
日本画を世界に、そして、舞台は、世界人。目ざす「世界の巨匠・世界の画家」

- ◎ (2019年の主要展覧会)  
2019年1月「LA ART SHOW 2019」(ロサンゼルス)  
2019年2月~3月「加藤弘光展」(スペイン・サラマンカ) (3mの屏風を中心に展示) (1か月間) サラマンカ大学・美智子さまホール
- ◎ (2020年の主要展覧会)  
2020年3月「加藤弘光展」(企画展) (F.E-I ART MUSEUM YOKOHAMA) (2週間)

◎ (参考資料)  
「加藤弘光」, 「日本画家 加藤弘光」(インターネット)  
「HIROHITSU KATO」, 「加藤弘光」(YouTube)